

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【泰平中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的にどの教科においても平均2ポイント向上したことから、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができたといえる。しかし、個人差も大きく見られる部分があるため個別に必要な支援を講じていく必要がある。次年度も振り返りや復習に重点を置き、繰り返しの機会を増やすなどして、基礎的・基本的な知識・技能の定着と、さらに理解を深めていけるよう、家庭学習が習慣となるように指導をしていきたいと考える。
思考・判断・表現	自らの思考を言葉として表現することに課題が見られる。数学では表やグラフの特徴や傾向を捉えて、言葉や数を用いて表現する活動に重点的に生徒が取り組むなど、教科の実態に応じた活動を取り入れる。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な解答の割合が92%であったため、来年度も継続していく。
主体的に学習に取り組む態度	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な解答の割合をどの学年も80%以上を維持する。次年度は「学びのポイントじ・しゃ・く」の観点を用いた授業を展開し、主体性をもって学習に取り組めるようにしていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	①学校評価の生徒アンケートについて、「自分は基礎学力が身に付いている」の肯定的解答を80%以上にする。 ②「よい授業」のアンケートの、因子③の授業スキル(設問番号3)について令和4年度よりも0.3ポイント向上させる。	⇒ 振り返りテストや単元別テストを通して、各教科の知識や技能の定着を図る。また、学習アプリを活用し、自分の学習状況を把握することで基礎学力の向上を図る。
思考・判断・表現	「よい授業」のアンケートの、因子④の児童生徒の活動に関連する設問番号(4,9,14,19,24)について令和4年度よりも0.3ポイント向上させる。	⇒ GIGA端末を活用した共同学習や共同編集などを通して「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」における「協働」を重点とした学習活動を行う。また、話し合い活動や書く活動を通して、表現力向上を図る。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査「生活習慣等に関する調査」の「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の設問について、前年度より肯定的解答の割合を上昇させる。	⇒ 各教科・領域の授業において、明確な課題設定を行い、自己解決の場面を設定する。また、授業の終わりや単元のまとめで自己の学習状況を振り返る時間を設ける。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	①学校評価アンケート【生徒】「自分は基礎学力が身に付いている」の肯定的解答が84.8%となり、目標を達成することができた。また、②「よい授業」のアンケート、因子③が17.4となり、目標の数値を超えることができたため今後も基礎学力定着に向けたアプローチを継続していく。	A
思考・判断・表現	「よい授業」のアンケートの、因子④の児童生徒の活動に関連する設問番号(4,9,14,19,24)について17.3となり、令和4年度よりも0.4ポイント向上させることができ目標を達成することができた。	A
主体的に学習に取り組む態度	「学習した内容について、分かった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の設問の肯定的意見が、全学年でR4年度さいたま市学習状況調査「生活習慣等に関する調査」に比べアップした。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、全国平均と比較すると、国語+7pt、数学+10pt、英語+12ptであった。国語の言語の特徴や使い方に関する事項を問う問題で、「落胆する」という意味を適切に選択できていなかった。小テストなどを通して、語彙力向上を図る。
思考・判断・表現	数学の「関数」領域で課題が見られた。事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかの無解答率が全国平均よりも高かった。「なぜその答えになるか」など、思考の過程を可視化できるような学習活動を取り入れる。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の肯定的な解答の割合は82%と高い数値であった。より一層、生徒たちが主体的の学びとなるように授業改善を努める。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	「知識・技能」において、R4年度さいたま市学習状況調査より国語+2.7pt、社会+2.8pt、数学+2.1pt、理科4.4ptであった。社会の世界のさまざまな地域/歴史的分野に関する問題は改善が見られた。また数学の図形問題や国語の我が国の言語文化に関する事項の問題については既習事項の確認を行ったり、繰り返し学習させたりしてさらなる定着を図っていく。
中2	どの教科も偏差値はR4年度さいたま市学習状況調査に比べ、上昇していた。中でも、「思考・判断・表現」において国語は+1.1pt、理科では+3.0ptとなった。数学の図形に関する問題や、国語の我が国の言語文化に関する問題が前年度に比べ正答率が減少しているため、知識の定着を図れるよう、授業展開を工夫していく。
中3	これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は94.7%で、前年度の調査から+9.1%と大幅にアップした。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な解答の割合は90%であった。この結果からも主体的に学習に取り組んでいる様子が見られるようになった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし